平 成 28 年 度

八代市議会議会運営委員会記録

審　査　・　調　査　案　件

１．３月定例会の運営について …… １
１．議長の諮問に関する事項 …… ８
１．その他 …… ３１

平成 ２９ 年 ２ 月 ２０日（月曜日）

議会運営委員会会議録

平成２９年２月２０日　月曜日
　午前１０時００分開議
　午前１１時５６分閉議（実時間１１６分）

○本日の会議に付した案件

１．３月定例会の運営について
　（１）付議案件
　（２）市長追加提出予定案件
　（３）会期の決定
　（４）その他
１．議長の諮問に関する事項
　（１）議会改革について
１．その他

○本日の会議に出席した者

委員長	野崎伸也君
副委員長	松永純一君
委員	亀田英雄君
委員	中山諭扶哉君
委員	成松由紀夫君
委員	古嶋津義君
委員	前垣信三君
委員	増田一喜君
委員	村上光則君
委員	村川清則君
委員	山本幸廣君
議長	鈴木田幸一君

○委員外議員出席者中発言の許可を得た者

君

○説明員等委員（議）員外出席者

総務部長	水本和博君
人事課長	白川健次君
財務部長	岩本博文君
部局外	
議会事務局長	東坂　宰君
議会事務局次長	嶋田和博君

○記録担当書記　嶋田和博君
　梅野展文君

（午前１０時００分　開会）

○委員長（野﨑伸也君）　皆さん、おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）ただいまから議会運営委員会を開会いたします。

◎３月定例会の運営について

○委員長（野﨑伸也君）　それでは、まず、レジュメのほうをですね、見ていただきまして、議題の１番目、３月定例会の運営についてを議題としまして、（１）付議案件の（イ）市長提出案件４１件について説明を求めます。

○総務部長（水本和博君）　おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）

それでは、３月定例会の提出予定議案について御説明を申し上げます。それでは、座って説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、配付をいたしております提出予定議案の一覧表のほう、１枚物ございますので、ごらんをいただきたいと思います。

今定例会の提出予定議案でございますが、全部で４１件でございます。その内訳は、予算議案が１９件、事件議案が７件、条例議案が１５件でございます。

まず、予算議案の１９件につきまして、岩本財務部長より御説明をさせていただきます。

○財務部長（岩本博文君）　おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）財務部岩本でございます。座りまして説明をさせていただきます。

それでは、予算議案の１９件でございますが、そのうち議案第１号から５号までの５件が平成２８年度の補正予算、議案第６号から１９号までの１４件が新年度、平成２９年度の当初予算でございます。

まず、議案第１号の一般会計補正予算額は３００万円で、内容は、秀岳館高等学校の第８９回選抜高等学校野球大会甲子園出場に対する補助を予定いたしております。

次に、議案第２号の一般会計補正予算額は１２億９７２０万円、約１３億円で、主な内容は、熊本地震関連事業で、被災農業者向け経営体育成支援事業補助金の追加措置分として３億３５４２万５０００円、及び国の補正予算に伴うもので、農業者等が高収益な作物、栽培体系への転換を図る取り組みに必要な施設整備に対する補助４億５４２１万３０００円、地方創生拠点整備交付金を活用した広域交流センターさかもと館イベント交流施設整備事業に５２００万円、そのほか、地方バス路線維持の補助金や過年度の国県支出金等の精算に伴う超過交付分の返還金などでございます。

また、議案第３号から５号までの補正予算は、国民健康保険、介護保険及び簡易水道事業の特別会計で、その補正予算額の合計は１億８７６４万１０００円、約１億９０００万円。内容は、過年度の負担金等の実績確定による調整などでございます。

次に、議案第６号から１９号までの平成２９年度の当初予算１４件でございますが、一般会計の予算額は６５７億５６５０万円で、前年度に比べまして５４億３６６６万３０００円、９．０％の増でございます。増額の主な要因としましては、衛生費における環境センター建設事業によるものなどでございます。

また、国民健康保険や後期高齢者医療などの特別会計１０事業につきましては、その予算額の合計は３７６億８５４９万８０００円、約３７６億９０００万円でございます。

また、水道、病院、下水道事業の企業会計３事業の予算合計は７５億１７１１万４０００円、約７５億２０００万円でございます。

また、一般会計、特別会計、企業会計の平成２９年度当初予算の総額は１１０９億５９１１万２０００円、約１１０９億６０００万円でございまして、前年度に比べ５．１％、金額で５３億７１４５万２０００円の増となっています。

以上、予算議案の説明とさせていただきます。

○総務部長（水本和博君）　続きまして、事件議案と条例議案でございますが、事件議案としましては７件を予定しておりまして、このうち、契約の締結についてが２件、専決処分の報告及び承認についてが２件、市道路線の廃止・認定について２件、指定管理者の指定について１件の計７件でございます。

事件議案、まず議案第２０号でございますが、八代市総合体育館天井改修建築工事に係る契約の締結で、予定価格が１億５０００万円以上の工事請負契約であることから、議会の議決をお願いするものでございます。

次に、議案第２１号及び第２２号は専決処分の報告及び承認についてで、いずれも法律の改正、施行に伴い、勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正について専決処分をしたものでございます。

議案第２３号は、八代市環境センター車庫棟・洗車棟建築工事に係る契約の締結で、予定価格が１億５０００万円以上の工事請負契約であることから、議会の議決をお願いするものでございます。

議案第２４号及び第２５号の市道路線の廃止及び認定につきましては、廃止路線が１件並びに新たな５路線の認定について、道路法の規定により議会の議決を求めるものでございます。

次に、議案第２６号は、八代市スポーツ・コミュニティ広場など８つのスポーツ施設の指定管理者を指定するため、地方自治法の規定により議会の議決を求めるものでございます。

以上が事件議案７件でございます。

次に、条例議案１５件としましては、議案第２７号、消防団員の報酬額の見直しを行うために所要の改正を行うものでございます。

議案第２８号は、消防団員の費用弁償について、山岳遭難救助の捜索活動を行う場合の加算について所要の改正を行うものでございます。

議案第２９号は、法律の改正に伴いまして、個人情報保護条例における引用条項の整理などを行うものです。

議案第３０号は、法律の一部改正により義務でなくなりました市町村の総合計画基本構想につきまして、従前のとおり議決すべき事件として定めるものでございます。

次の議案第３１号は、法律等の一部を改正する法律の施行に伴い、市税条例の所要の改正を行うものです。

議案第３２号は、市が保有する市税等債権の一連の事務処理について条例を制定するものでございます。

議案第３３号は、新たな法律の施行などにより、建築物に関する手数料について、手数料条例の所要の改正を行うものです。

議案第３４号は、法施行令の一部改正に伴いまして、介護保険条例の所要の改正を行うものでございます。

議案第３５号は、泉第八小学校の新たな教職員住宅設置による使用料を設定するため、教職員住宅条例の一部改正を行うものです。

議案第３６号は、教育委員会にいじめ防止法に基づく附属機関を設置するため新たに条例を制定するものでございます。

議案第３７号は、八代市立視聴覚ライブラリーの必要性が低下してきたことなどに伴い、廃止するものでございます。

議案第３８号は、法律の一部改正に伴い、工場立地法地域準則条例における引用条項の整理を行うものでございます。

議案第３９号は、八代市スポーツ・コミュニティ広場の名称変更並びに市民プールの使用料について新たな使用料を設定するため、体育施設条例の一部改正を行うものでございます。

議案第４０号は、八代市農村運動広場の利用規定を整備するに当たりまして、農村運動広場条例の所要の改正を行うものです。

議案第４１号・八代市食肉センター条例及び八代市食肉流通施設条例の廃止につきましては、現在、業務を休止しております当該施設を廃止するためのものでございます。

以上が３月定例会の初日に提出を予定しております４１件の議案でございます。よろしくお願いします。

以上です。

○委員長（野﨑伸也君）　水本総務部長、ちょっと確認なんですけれども、条例議案第２８号・八代市消防団員の定員、任用、服務等に関する条例の一部改正についての説明がありましたけれども、その中に費用弁償条例の一部改正というような文言がありましたが、これは２７号のほうの報告ではないんですか、確認してください。２７号と２８号が逆ではないんですか。大丈夫ですか。

○総務部長（水本和博君）　議案第２７号におきましては、消防団の報酬の部分が２７号のほうに出てまいります。２８号におきましては、報償費の規定の関係が、服務の関係で報償費関係が２８号のほうに出てまいるということでございます。

○委員長（野﨑伸也君）　先ほどの説明の中では、２８号のほうで費用弁償の何か話があったかと思ったんですけど、よかったですか。私の間違いですかね。大丈夫ですか。

○総務部長（水本和博君）　費用弁償の関係の一部改正につきましては２８号のほうで出てまいります。２７号では報酬だけのほうが出てまいります。

○委員長（野﨑伸也君）　わかりました。何となく、題目とですね、今の説明のほうがちょっと、若干似通ってる部分があったもんですから、間違いではないかというふうに確認でございます。間違いないんですね。

○総務部長（水本和博君）　はい。

○委員長（野﨑伸也君）　わかりました。

それでは、説明終わりましたけれども、何か質疑ございませんか。ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　なしということでございますので、次に（ロ）先議案件ございますか。

○総務部長（水本和博君）　今回は先議案件といたしまして、２件をお願いしたいと思っております。

まず、１件目は、予算議案の議案第１号・平成２８年度八代市一般会計補正予算・第９号と事件議案の議案第２０号・契約の締結についての議案、合わせて２件でございます。

まず、議案第１号は、秀岳館高等学校の甲子園出場に係る補助金で、１月２７日に出場が決定しまして、その後、開催も間もないということで、支出に急を要しているということで、先議でお願いいたしたいものでございます。

次に、議案第２０号・八代市総合体育館天井改修工事に係る契約の締結については、１月２７日に開札を終えておりまして、各種の競技団体からの早期復旧再開の要望が強いことから、一日でも早く工事に着手したいということで、先議にて議決をお願いするものでございます。

以上２件でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（野﨑伸也君）　ただいま先議２件について説明がありましたけれども、何か質疑ございませんか。ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　それでは、なしということでございますので、続いて、先議案件２件についての委員会付託について協議いたします。付託はいかがいたしましょうか。

○委員（亀田英雄君）　委員会付託でお願いします。

○委員長（野﨑伸也君）　委員会付託という御意見が出ておりますけれども。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　それでは、お諮りいたします。先議案件２件については、それぞれ関係する委員会に付託することといたしたいが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　御異議なしと認め、そのように決しました。

なお、付託表をもとに付託先を決定することについては、議案の送付がまだであることから、款項別の詳細な内容が未定であります。

そこで、付託先については、開会当日の議会運営委員会開催時に付託表をもとに正式に決定することといたしたいが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　御異議なしと認め、そのように決しました。

次に、（ハ）請願・陳情について説明を求めます。

○議会事務局長（東坂　宰君）　それでは、（ハ）陳情・請願について説明いたします。

現在、本日付で受理いたしております請願・陳情につきましては、陳情１件でございます。八代市国民健康保険及び高齢者はり・きゅう等施設利用券の存続と拡充についてということで１件いただいております。

なお、委員会の参考送付分はございません。

以上でございます。

○委員長（野﨑伸也君）　説明は終わりましたけれども、何か質疑ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　それでは、次、（２）市長追加提出予定案件ありませんか。

○総務部長（水本和博君）　今回、追加提出議案はございません。

以上です。

○委員長（野﨑伸也君）　なしということでございます。

次に、（３）会期の決定について協議いたします。

まず、招集日について報告を求めます。

○総務部長（水本和博君）　招集日についてでございますが、２月２７日月曜日午前１０時からお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（野﨑伸也君）　それでは、会期についてお諮りいたします。

会期日程につきましては、いかがいたしましょうか。（「委員長案がありましたら、よろしく」と呼ぶ者あり）委員長案ということでございましたので、それでは、委員長腹案を事務局のほうから配付いたします。

（書記、資料配付）

○委員長（野﨑伸也君）　念のためにですね、事務局から説明をいたさせます。

○議会事務局次長（嶋田和博君）　私のほうから、３月定例会日程の委員長案について説明をさせていただきます。着座にて説明します。

お手元の配付日程案のとおりですが、２月の２７日月曜日１０時、本会議開会となります。先ほど先議案件についての委員会付託の御決定をいただきましたが、正式には開会日の議運で決定されることになりますが、現在のところ、総務委員会と建設環境委員会が開催される予定となっております。

総務委員会がこちらの第１委員会室、建設環境委員会が大会議室のほうに設けております第２委員会室ということで、いずれも本会議休憩中に同時開催、同時放映の予定になっております。

翌２月２８日火曜日、質疑・一般質問の締め切りとなっております。午前１０時まででございます。

翌週の３月６日月曜日から質疑・一般質問の週となります。

７日のですね、本会議終了後には、議会改革特別委員会、こちらは継審の手続の予定となっております。

３月１０日金曜日は、質疑・一般質問の予備日となっております。

翌々週、３月１３日月曜日からは委員会の週となりますが、１３日月曜日、新庁舎建設に関する特別委員会、１４日火曜日、経済企業委員会、１５日水曜日、建設環境委員会、１６日木曜日、文教福祉委員会、１７日金曜日、総務委員会となります。

その後、休会を挟みまして、３月２４日金曜日１０時から討論・採決というような流れになっております。

なお、議会運営委員会、全員協議会の開催については、下の欄に記載のとおりでございます。

以上です。

○委員長（野﨑伸也君）　今、説明ありましたけれども、御意見ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　それでは、お諮りいたします。

３月定例会の会期は２月２７日から３月２４日までの２６日間とすることに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　御異議なしと認め、そのように決しました。

次に、（４）その他の（イ）八代市特別職報酬等審議会からの答申について、執行部から発言の申し出がありますので、これを許します。

○総務部長（水本和博君）　それでは、去る１月１８日に八代市特別職報酬等審議会が開催されまして、その後、答申を市長のほうに提出をいただいておりますので、答申が終了いたしておりますので、その内容について御報告をさせていただきます。

報告は白川人事課長よりいたさせます。よろしくお願いします。

○人事課長（白川健次君）　皆様、改めましておはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）人事課の白川でございます。よろしくお願いいたします。それでは、座って説明させていただきます。

それでは、お手元に資料として答申書の写しを配らせていただいております。こちらになります。よろしいでしょうか。この答申書の写しに沿ってですね、御報告をさせていただきます。

本年１月１８日に市長から審議会に対しまして諮問がなされております。金額などを具体的に提示しないいわゆる白紙諮問でございます。この１月１８日に審議会を開催いたしまして、先週２月１３日に審議会会長から市長に対しまして、答申が行われております。

まず、答申の内容でございますが、審議の対象となります全ての職について、現行どおり据え置きというものでございます。金額につきましては、資料に記載のとおりでございます。

次に、審議の経過でございますが、今回の審議会の中では、まず本市行政運営を取り巻きます状況について再確認をいたしております。

市町村合併からこれまでの人口の動向や今後の予測、市税の税収及び地方交付税など歳入についての今後の見通し。

また、歳出面では、熊本地震からの復旧復興に向け、多くの事業に取り組む必要があるとともに、大型の市有施設の改築などが喫緊の課題となっていることや、少子高齢化の進展によりまして社会保障費の更なる増大が見込まれることなどを、一昨年策定されました中期財政計画などの資料を示しながら、説明をいたしております。

あわせまして、熊本地震の影響などを踏まえまして、今年度の本市職員の給与は県に準じて据え置きとしていることを紹介いたしております。

また、社会経済情勢につきましては、委員さんから、内閣府から発表されました経済状況につきまして、雇用・所得環境などの面で改善が見られる一方、所得から支出への波及におくれが見られるとの分析が報告されております。

このような状況を踏まえた上で議論いただいたところでございますが、委員の皆さんの御意見としましては、今年度は熊本地震の影響などによる厳しい財政運営等を踏まえれば、報酬等を引き上げる根拠に乏しく、市民感情を考慮しても難しい。

また、熊本県内は穏やかな景気回復の状況にあると言われていますが、本市においては、全体的に見て、景気がよいとは余り感じないというような御意見が大勢を占めたところでございます。

こうした状況分析に加えまして、議員及び特別職の職務と責任、県内各市や類似団体との比較などを総合的に勘案した結果として、現行どおり据え置きという答申がなされた次第でございます。

このように、十分審議を尽くしていただいた結果としての答申と受けとめておりますので、執行部としましては、今年度は議員報酬の額及び特別職の給料の額につきましては、改定の提

案は行わない方針でございます。

以上、特別職報酬等審議会及び審議会答申についての御報告とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○委員長（野﨑伸也君）　説明が終わりましたけれども、何か質疑等ございますか。ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　それでは、執行部のほう、退席のほうをお願いいたします。

（執行部　退席）

○委員長（野﨑伸也君）　それでは、議題の（ロ）議員の出退確認について、事務局から報告を求めます。

○議会事務局長（東坂　宰君）　それでは、議員さん方の出退表示について説明をいたしたいと思います。

議員さん方の招集告示に関する参集通告に関しましては、震災まで、旧と言いますか本庁の議会棟におきましては、事務局の執務室前の出退表示器を使って点灯していただいておりましたけれども、ここではですね、そのような設備もなくて、本会議出席をもって事実上の確認としている状況にあります。

そこで、今回は、今準備いたしました議員出退表示板を使いまして、招集に応じたこと、すなわち応招議員の認定を行いたいと思っております。

なお、字がですね、幾つか略字になっております。大変申しわけございませんけれども、議員さん方の御理解と御協力をお願いいたしたいと思います。よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○委員長（野﨑伸也君）　説明終わりましたけど、何か質疑等ございませんか。質問ございませんか。

私からよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

どこに。

○議会事務局長（東坂　宰君）　エレベーターあるいは階段を上がられてきたときのですね、議会事務局、今、議事と総務係とドアがありますが、あの間のあたりにですね、掲示をしたいと思います。

○委員長（野﨑伸也君）　わかりました。

ほかにございますか。

○委員（山本幸廣君）　今の出退については、局長、賛同いたします。御理解いたします。

これから、議会棟というのが、これ、何年か活用するわけでありますので、よろしかれば、予算計上といいますか、新しい、他市並みのですね、出退というのは、ランプについてもですよ、そりゃやっぱし執行部に対してですね、予算の要求なり、そういう考えは持って取り組んでいただきたいと、これはもう私の意見・要望でありますが、ぜひともそれは委員長お願いしたいと思います。

これをずっと、３年、５年、１０年という形でですね、なかなか正解というんですか、自分が出退のところに出さなくて、職員がそこに横滑りするとかですね、そういうことがあり得る、――ないと思いますけども、そういうことがないようにするためにも、ぜひとも、私の意見についてはひとつ御配慮していただきたいと思います。

○委員長（野﨑伸也君）　ほかにございますか。

○委員（前垣信三君）　済いません、本庁舎のときには自分でボタンを押しとったですが、来て自分で動かすんですか。そのあたりちょっと。

○議会事務局長（東坂　宰君）　今ちょっと例を挙げますとですね、ここに議長と副議長がですね、出のほうになっておりますけど、通常はこういう形になっておりますけども、議員さんおいでになればこういう形にですね、動かして

いただきたい。お帰りのときにまた退のほうに戻していただくと。こういう形にしていただければと思います。

以上でございます。

○委員長（野﨑伸也君）　前垣委員、よろしいですか。

○委員（前垣信三君）　はい、結構です。

○委員長（野﨑伸也君）　ほかにございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　今の出退表示板についてはですね、いろいろと議会事務局のほうで知恵を出していただいてですね、作成いただいたというような経緯がございます。

あと、若干、漢字については、ちょっと申しわけないというような部分がですね、字体がちょっと違ってる部分があるということございましたので、各代表の皆様方におかれましてはですね、各議員の皆さんに、出てこられたときにはですね、きちんと表示のですね、位置を動かしていただいて、あと、今言いました漢字の件についてもですね、御理解いただくように申し述べていただければというふうに思います。

よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

それでは、ただいまの件について御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　御異議なしと認め、そのように決しました。御協力のほど、よろしくお願いいたします。

◎議長の諮問に関する事項

○委員長（野﨑伸也君）　それでは、議題の大きな２番目、議長の諮問に関する事項の（１）議会改革についてを議題といたします。

まず、前回御決定いただきました請願者・陳情者の意見陳述機会を設ける件につきまして、申し合わせ事項の６番目、意見陳述者への実費弁償の項目に関して、議会事務局から説明があります。

○議会事務局長（東坂　宰君）　それでは、請願者等がみずから意見陳述を希望した場合の実費弁償支給について少し説明をさせていただきたいと思います。着座にて説明いたします。

八代市議会における請願・陳情者の意見陳述についての申し合わせ事項につきましては、前回の委員会において決定を見たところでございますが、申し合わせ事項中、６番目の意見陳述者への実費弁償の事項に関しまして、請願者等がみずから意見陳述を希望した場合は支給しないとして、八代市議会等に出頭した選挙人等に対する実費弁償条例の改正が必要であるとされておりましたが、あくまでも参考人制度を活用する前提においては、地方自治法第２０７条の規定に基づき支給しなければならず、支給しないとすることはできないとのことでございます。これにつきましては、全国市議会議長会に確認したところでございます。

つきましては、請願者等がみずから意見陳述を希望した場合においても、現行条例に基づく支給が必要になると思われます。

以上でございます。

○委員長（野﨑伸也君）　説明いただきましたけれども、何か質疑ございませんか。

○委員（成松由紀夫君）　再三、うちの代表も含めて、その辺については、根拠法令、条例も含めて指摘があっとったはずですけど、なぜそのような初歩的な確認ができておらぬだったのか。

と、委員長案でぼーんと出てきて、みんなでもんでくださいっていうのもあったんだけども、そもそも、そこら辺は議会事務局がやっぱり委員長にも、――参考人制度の弾力的活用しかあり得ないんじゃないかというのをうちの会派みんな言うとったわけですよね。なぜそういう初歩的な段階のことを今、こないだ決めとっ

て済いませんという話になるのか。どがんですか、そこは。

○議会事務局長（東坂　宰君）　先日の会議の中でですね、そのような御決定をいただいていたところでございますけども、私どももいろいろと調べておったんですけども、最終的なですね、確認が漏れてたということでございます。大変申しわけございません。

○委員（成松由紀夫君）　いやいやいや。

あれは委員長案だから、別に議会事務局がアドバイスをちゃんと、そういう初歩的な段階でしとってほしいなという話であって、局長が謝る話でもなかっですけどね。

最初から、案自体にも違和感感じとったし。要するに、この部分については、参考人制度の弾力的活用もできるのではないかということの話で、あり得るのではないかちゅうレベルの話だったんです、そもそもが。参考人制度で活用して、どやんなっとならせんか。そのほかには関係法令なんかなかですよね。これはもう議運で、以前、何回も視察ば、先進地して、議会基本条例に絡んだところで学習してきとったわけだから。

だからそこを、あと議長経験のあられた古嶋さんとか、議会改革でも橋本さんが慎重になられるのは、全国市議会議長会の部分にもしっかりこの辺は問い合わせしとかないとまずいんじゃないのっていうのをいろんな場面場面で、指摘が再三なされとるっていうところだけん。

そもそも、参考人の活用をうちでは以前１回だけ例があるけれども、その弾力的運用自体にも問題ないんすかね、そもそも。どうなんですか、そこは。（議会事務局長東坂宰君「委員長」と呼ぶ）委員長はわかんないんですか。委員長案で大体この件は出てきたわけだから。

○委員長（野﨑伸也君）　まず事務局に聞きます。

○議会事務局長（東坂　宰君）　今お尋ねの件でございますけれども、参考人制度を活用したですね、このような運用というのは、便宜上はできるものというふうに解釈はしております。

ただ、その中におきましてですね、いろんな全国各自治体でこのような制度を今実行しているところがございますけれども、大部分のところではですね、議会基本条例に基づきまして、議会基本条例を制定いたしまして、その中に、条項としてこのようなところを設けまして、実行しているのが現状かというふうに思われます。

○委員（成松由紀夫君）　要するに、便宜上っていうところでやったところはありますよだったんですよ、以前確認したときに。で、好ましくはないという見解も持っておられるんですよね。好ましくはないんですよ、実際問題は。ただ、どうしても重要案件とか、その時々の委員長判断で弾力的活用というのを用いらざるを得ないというところの見解でしょう。

○議会事務局長（東坂　宰君）　はい。

○委員（成松由紀夫君）　ですよね。だから、そうなると、それをすんなりいくためには、議会基本条例が先だと思うとですよ。もう、これをどうしてもやっていくんだということでいけば。

ただ、我々は、通常の正副委員長の判断でそれはいいんじゃないですか、弾力的活用でいいんじゃないんですかって、いざというときはですよ。それで言っとるわけだけん、議会基本条例がまずは先じゃないのかなと思うんですけど、そこはどうなんですか。そうしないとスムーズに運用できないでしょう。

○委員長（野﨑伸也君）　私からよろしいですか。

今、るる局長のほうからも説明していただきまして、確かに参考人制度をですね、活用してやっていこうというような話はですね、十分に前からですね、議会事務局のほうとも打ち合わ

せをさせていただいて、ずっとやってきたという中で、事務局のほうもですね、一生懸命やっていただいて、いろんな確認もですね、何回もしていただいたというような中であって、前回はですね、支給しないというようなことでしていったんですけれども、実際またですね、本当にこれを決定した暁にですね、なったときに、じゃあ、どやんふうに運用していくか、どこに置いていくかっていう話でまた確認作業していただく中で、そういった見解が出てきたということでございますので、ここについてはですね、若干の確認不足というのがあったのは、もう否めないところかなというふうに思います。

○委員（成松由紀夫君）　だから、私が確認したいのはね、そういう部分であるならば、もう強硬だろうが何だろうが採決して決定した部分について、また、今いろいろああだこうだ言う気持ちもないし、反対するものでもないけれども、議会基本条例を盛り込んだ後に、その後に運用開始でもいいんじゃないですか、そんなに急ぐ必要があるんですかっていうところを聞きたいんですよ。ポイントは。

○委員長（野﨑伸也君）　じゃあ、私が答えます。

急ぐ必要があるんじゃないかなというふうに思います。というのが、これはですね、先ほど言われたように、参考人制度の中でですね、活用、運用しているというような中で、お話もありましたけれども、残念ながらうちのほうでは議会基本条例がないもんですから、今、検討されてるもんですから、その間にですね、るる、一生懸命ですね、今、議会改革特別委員会の中で議論していただいてるというのがありますので、そちらのほうはそちらのほうで重視していかなきゃならない部分と思います。

で、言われたとおり、議会基本条例があって、これをやっていくというのがスムーズな流れかというふうにも思いましたけれども、そこについても議会事務局と、じゃあ、うちはないけれども、じゃあ、どういうふうに運用していけばいいかという話をですね、大分検討した中で、じゃあ、参考人制度を利用してやりましょうよという話に落ちついたということでございます。

で、何でこれをしていかなきゃいけないかという話なんですが、市民の皆さんのですね、意見をですね、広く聞く機会というのがですね、今まで参考人制度については、若干、私の中ではですね、足らない部分があったんじゃないかと。なかなか敷居が高い部分があったんじゃないかということがありまして、よその議会でですね、こういうことをやられてるというのは、もちろん皆さん方も知っておられると思いますけれども、そういった確認を、皆さん方の中でですね、じゃあ、八代市議会として、議会基本条例はないけれども、参考人制度を活用して、じゃあ、どのようにすればできるかというのもですね、市民の皆さんに対して、こういう形でですね、うちの議会でもできるようになるんですということをお示ししたいということで、私は案として出させていただきました。

その中で、いろいろとこの会議の中でですね、議運の中でいろいろとけんけんがくがく、案もですね、いろいろと皆さん方の御意見をもとにですね、変えさせていただいたとこもありますし、いろいろと議論していただきまして、何とか成案としてですね、できたかなというふうに思ってますので。

もちろん、前回のですね、ところでは、御決定もいただきましたので、広く市民の皆さんがですね、八代市議会に対して意見を申せる部分ということで、このことについてはですね、議会基本条例制定が筋かもしれませんけれども、参考人制度を利用して、こちらのほうの活用もできるというような見解もありますので、私としては、これを御決定いただいたというような

中で、もうすぐにでもですね、やっていければというふうに思ってます。

○委員（成松由紀夫君）　急ぐ必要はないんですよね。要するに、法令、条例等の根拠がない段階で、委員長の思いだけでね、走ってもらっても、根拠がない部分は進められぬわけですよ。我々そもそも反対しとった部分も、参考人制度の根拠法令も、あの後ちょっと調べてはみたっですけれども、地方自治法第１１５条の２しかないんですよね。請願・陳情の意見陳述に関する法令っちゅうのはない。あくまであるのは、参考人制度の根拠法令１１５の２。これも結局、真に利害関係を有する者又は学識経験を有する者から意見を聞くことができるなんですよ。２も、地方公共団体の事務に関する調査又は審査のために必要があると認めるときは出頭を求められるということで、実際、これしかもう根拠がないでしょう。

何で、そういう請願・陳情に意見陳述の法令なんかが今まで盛り込まれないのかということも含めていろいろな見解を尋ねると、やっぱり政治的プロ市民に悪用される可能性もあると。それと、やっぱり恣意的にですね、請願・陳情を議員が出させて、やらせて意見陳述をするとか、やっぱりいろんな反対の側面もその当時いろいろと意見が出た中で、参考人制度っていうのの根拠法令があるわけですよ。それを、広く市民の声を、広く市民の声をということで、急ぐ必要があるのっていうのは、決定されたと言うても、反対がおった中での――。

本来ですよ、そもそも、議運は原則は全会一致。その中でこれまで私も苦労して案をつくったからっていうことで、強行採決して、数が出て、いや、通ったけん、決まったろうっていう話になって。でも、その後、事務方から話が、済いません、関係法令、根拠法令がありませんでした、済いませんっていう話になれば、もう議運でですよ、１回、今、議会改革で議会基本条例の部分をもんでるじゃないですか。だから、その議論の結論を待って、そして議会基本条例を制定するということになれば、この文言を、議会基本条例に漏れないように盛り込んで、そして運用開始っていうことが私は通常と思うんだけどですね。

そういうふうにやらないと、根拠法令もない、何もないというところで、いや、決めたけん決めたけんって、広く市民からとるって言うても、さっきから言うように、反対のほうでは、まだ恣意的プロ市民が悪用するんじゃないかとか、やっぱり、いろんな御意見もあるわけですよ、市民の中には。だから、そういうことを委員長はやはり、両方の意見を吸い上げていただいて、調整してもらって。

だから、完全にね、否定するものでもなくて、参考人制度の根拠法令の活用をしていくことしか、今、対応はできないでしょうがと。で、その部分でも議会基本条例に盛り込んで、そして運用を開始していくっていう時間は必要じゃないですかって。それが、熟議であったり、そういうものであって。何で急ぐ急ぐ急ぐと言うのか、その根拠が私にはちょっと理解できない。

○委員長（野﨑伸也君）　根拠は先ほど言いましたとおり――。

○委員（成松由紀夫君）　いや、だから広く市民だけじゃ――。だから、いろんな側面があるんですよと。だから、根拠がないでしょ。根拠法令がないから、だから、そこを他の自治体にもない、他の議会でも決めてないようなことを、じゃあ先進的にやるんだというところまでの、これは根拠になり得ない。この運用開始は。

だから、運用開始するのは議会改革の議論を待って、結果が出て、議会基本条例、じゃあやりましょうっていうことになれば、そのときは議運からこういう、そのときは盛り込みますよ

と。その意見陳述制度については盛り込みますよっていうところまで議運で決めとって、それで遅くないんじゃないですかって言ってるんですよ。

○委員長（野﨑伸也君）　いや、先ほど言いましたとおり、すぐにでもやりたいという気持ちがあったもんですから提案させていただいたっていうことなんですよ。

○委員（成松由紀夫君）　だから、それは委員長だけであって。みんなじゃないから。

○委員長（野﨑伸也君）　いやいや。いいですか、いいですか。待ってください、待ってください。

みんなで（聴取不能）じゃなくて、ここで大分熟議してやったわけですから。

○委員（成松由紀夫君）　だけど、反対はいなかったですか。

○委員長（野﨑伸也君）　反対いましたよ。反対いましたけれども、賛成の意見のほうが多かったっていう話なんです。

○委員（成松由紀夫君）　いや、だから、原則は全会一致だから。

○委員長（野﨑伸也君）　先ほど言っておられますとおり、法に照らして根拠がないけんがっていう話はどこにでもある話なんですよ。

○委員（成松由紀夫君）　いや、どこにでもないと思うけどね。

○委員長（野﨑伸也君）　で、それが悪いという話でもないし、やってみらんといかぬというともあるじゃないですか。

○委員（成松由紀夫君）　いやいやいや、そんなことは。

○委員（亀田英雄君）　委員長、２人の会話じゃなかっだけん、きちんと手ば挙げて話ばせんば、おかしかよ。いやいやとか、ああだこうだって２人でやりとりする話じゃなかっだけん。

○委員長（野﨑伸也君）　わかりました。

○委員（亀田英雄君）　きちんと会議でしてください。

○委員長（野﨑伸也君）　はい。

成松委員、今、私のほうからじゃあ発言をしますね。

言われたとおり、後からっていうような盛り込み方もですね、当時、考えもあったんですよ。議会基本条例ができてから盛り込むっていう手もあったんですけれども、ただ、それじゃですね、やはり市民の方からですね、意見を申し述べたいというところもですね、かなりあっておりますので、そういった間口がですね、なかなか、今、敷居が高いんです、参考人招致だけであれば。非常にですね、高いんで。それにですね、もう少し弾力的な運用をしましょうねっていうことでこの案をつくったと。申し合わせ事項っていうことですから。

前回の会議でもありましたとおり、この申し合わせ事項がですね、皆さん方、また市民の方に対していろんなですね、ふぐあいがあった場合は、逐次、改正していきましょうよというような意見もありましたもんですから、じゃあ、それで行きましょうというようなことをですね、させていただいたとこなんです。

で、いろんな皆さん方のですね、意見を聞きましたけれども、なかなかに、賛成の意見のほうが多かったというのが現実なんですよね。何でこれをしないのかっていうような御意見もですね、おかしいだろうっていうような御意見もありましたもんですから、最終的には前回の会議の中で決をとったじゃないですけれども、賛成意見が多かったっていうようなことで、今回は提案をさせていただいてるということでございます。

私と、今、成松委員がいろいろとお話をしましたけれども、これについて何か御意見ございますか。

○委員（中山諭扶哉君）　先ほど成松委員言われた意見ですね、非常に大事な意見だったろう

なっていうふうに思いますし、前回の会議の中でですね、そういう意見、非常にたくさんいただいたもんですから、その中で、けんけんがくがく話をさせていただいたというところがありました。

で、最終的には、済いません、ちょっと確認なんですけど、私、確認したのは、決までとったんじゃなかったかというふうに思います。それで、委員会としての結論を出したんじゃなかったかと。確認ですけど、ちょっと委員長よろしいですか。

○委員長（野﨑伸也君）　はい、確認はとりました。採決しましたんで。

○委員（中山諭扶哉君）　そうであれば、ちょっと、また同じ内容をずうっと今から先繰り返すのかというのもどうかなというふうに思いますし、先ほど言われたように、そこが、足らない点があれば、また改正するというような内容もですね、その中にたしか確認したというふうに思いますので、進めていただきたいというふうに思います。

○委員長（野﨑伸也君）　ほかに。

○委員（増田一喜君）　今言った採決で確認とったとかって、したと言うけれども、私は最初からこういうのは全会一致だということを言ってるから、どうもその意見には賛同しかねるんですけどですね。

そして、今、費用弁償の件ですけど、それを見直さずして、またそのまま行くっていうことですかね。大体申し合わせちゅうのだから、お互いがそれを賛成する人は賛成していいし、反対の人は反対で、何もここに残ってやる必要がないんじゃないかなと、そういう私は。

だけん、これちゃんと法令とか、そやんとで、これいいんですか。事務局に尋ねたいんだけど。もう参考人制度があるんだし、それを踏襲するような形でやれば、わざわざこういうのを、あえて二重になるような取り決めみたいなのをね、する必要はないと思う。前から言うとる、それは。委員長が、次の委員長になられる方に申し送ってやれば済むことじゃないのかな。議員全部にそれをせろというような、そのね、する、それも言うんであれば全員が賛成して初めて成り立つのじゃないのかと。委員長が私はそう考えました。賛成が多かったから、それで行きますって、それはちょっと、やり方としておかしいんじゃないんすかね。それは案は出したとしても、賛成が多かろうが、やっぱり反対がおるという中では全会一致になるように持っていくのが、これは委員長の役目じゃないかなと思うんですよ。（「そのとおり」と呼ぶ者あり）それをしないで、もめたもめたって――。

○委員長（野﨑伸也君）　増田委員、よろしいですか。増田委員、よろしいですか。（「まだ話してるから、委員長」と呼ぶ者あり）

○委員（増田一喜君）　数で押し切ってしまうというのは、やっぱり議会の中では、そりゃ最終的には採決せないかん部分がありますけれども、こういうものは採決するにそぐわないと思うんですよ。

事務局としては、前も全会一致ちゅうね、上村議員が委員長されてたときには、そういうふうな形で、お互いに申し合わせしてやってきたはずなんですよね。これが、採決ちゅう方法もあるでしょうけれども、それをあえて採決に向いていくちゅうことは私はいかがなものかなと思う。

事務局としては、どんななんですかね、それは。やっぱり、いいですか。こういう申し合わせを決めること自体もそうだし、全国の市議会議長会なんかでのやっぱり見解もあるし。事務局は事務局で調べたところの中で、そんな、どうなんですか。そこがようわからん。委員長がこう思ったから、それをっていう、何か押しつけみたいな雰囲気になるもんだから、そこがす

んなり話に入っていけない部分がありますよ。

○委員長（野﨑伸也君）　増田委員、よろしいですか。（「事務局に聞いてるんだから」と呼ぶ者あり）いやいや、事務局には聞かせない。答えなくていいです、私が答えますんで。（委員成松由紀夫君「そういう運営はまずいんじゃないんですか」と呼ぶ）いやいや、議会で決めることなのに対して、それをですね、（「決めたことが間違うとるとたい」と呼ぶ者あり）事務局に聞くっていうのはまたおかしいです。（委員成松由紀夫君「だから聞いてるんだから」と呼ぶ）

待ってください。私のほうから。（委員山本幸廣君「決めたほうが間違うとるという発言が出たばってんが、何で決めたほうが」と呼ぶ）待ってください。待ってください。（聴取不能）事務局の発言は――。（委員山本幸廣君「これは委員会で決めるこっだもん、大体が。そら賛成も反対もあったい」と呼ぶ）後ほどいたします。

増田委員が言われたように、（発言する者あり）慎重にやったというふうに思ってるんですよね。何回もこれを、案は大分変わったと思うんですよ。一番当初出した私の案からすれば大分変わったというふうに思いますよね。いろんな、増田委員からも言われたところ、古嶋委員が言われたところについてもやっぱり変えた部分がありました。そういった部分でですね、大分配慮をですね、させていただきながら、これはつくらせていただいたというふうに思ってます。（委員山本幸廣君「そのとおり、そのとおり」と呼ぶ）

あと、法的に参考人制度はあるけれど、請願・陳情の分についてはないよというようなこともですね、議会事務局と話をして、じゃあ、そういったものを申し合わせをつくっとこうやということでこれをつくらせていただいたというようなとこがあります。（委員山本幸廣君「そのとおりたい。だから理解した」と呼ぶ）

あと、議会運営委員会が全会一致というのがっていう話がありましたけれども、私たち議会人としてですね、議場で賛成、反対のですね、賛否をとってるという中でですよ、そこで生きてきてるという中で、じゃあ、自分たちの決めごとについて、その賛否ができないのかっていうのは私はやっぱ市民に対してですね、申しわけないんじゃないかというふうに思うんですよ。

あわせて、きょうですね、議会運営委員会、集まっていただいておりますが、この場でですね、皆さん方がここに来ていただいてるというのは、費用弁償が発生してます。いろんな中で話をしていただくということでですね、費用弁償発生してます。で、議会改革特別委員会のほうではですね、費用弁償発生してないというのもありますんで、そういったとこも考慮してですね、自分たちの議会の中の決めごとについて賛否をとれないというのは、議会人として私はちょっと、それは市民に対する、負託にですね、応えてないというふうに思いますんで、そういった発言はですね、ちょっと差し控えていただきたいなと思っています。

事務局、今聞かれたことについて、局長、何か答えられますか。

○議会事務局長（東坂　宰君）　今回の件につきましては申し合わせ事項ということでございますのでですね、今おっしゃったように、確かに基本的にはですね、全会一致、これに勝るものは当然ないというふうには思います。そういった中でですね、前回の委員会の中で、全会一致が得られなかったということでですね、賛否はあったのですけども、そういう中でですね、決をとられたというのは事実でございますし、そこに対してですね、私たち事務局から、それに対してですね、どれが正しいというのはなかなか言えないとこであります。ただ、基本的に

は、申し合わせでであればですね、基本的には、先ほど申しましたように、全会一致というのが基本という、そこまでしか私たちから言えません。

それから、もう一つ、質問の中にあったように思うんですけれども、法的にどうなのかというのがございました。確かに、参考人につきましては、自治法の１１５条の２の第２項にですね、参考人制度がございますんで、それは問題ないんですけども、先ほどの説明でもいたしましたように、この請願・陳情に関する意見陳述につきましては、議会基本条例を設定されてやっていらっしゃるということですね。私がきょう冒頭説明いたしましたときに、ちょっと私たちも確認不足でですね、ちょっとこういう問題を引き起こしてしまったわけで、大変申しわけないんですが、そういった中でですね、私からまたこういうお話をするのも大変申しわけないんですけども、我々議会事務局といたしましては、やっぱりある程度、石橋を叩いて渡るという部分もどうしてもございますんでですね、それは議会基本条例なり何なりにですね、そういう条項、項目がですね、あったほうが、私たちは運営は確かにしやすいというのは現実でございます。

以上でございます。

○委員長（野﨑伸也君）　ほかに。

○委員（成松由紀夫君）　要するに、最初の冒頭の話というとは、希望する人には費用弁償を払いませんというところの決めごとは決めとるわけでしょう。でも、それが実は発言した人とかには皆さん出さんばんという、そういうことがあったっちゅうことでしょう。

○委員長（野﨑伸也君）　そのとおりです。

○委員（成松由紀夫君）　だから、そういうような、ちょっと皆さんにいろいろ決めてもらったけども、こういう部分もだめだったので、申しわけありませんでしたっちゅう話だから、そうやって、根拠と裏づけのところがきちっとしとかないで、これをごりごりごりごり押していってもどうなんですかねっていう。

だから、決まったのを、決まっただろうと、数でちゃんと決めたじゃないか、だからそれはそれで、それを覆そうなんて話を我々はしてないわけですよ。それはそれでいいけれども、実際問題、議会基本条例にうたい込むっていう話に議運ではしといて、そして、議会改革で基本条例をやろうっていう話のときに、これは議運から附帯があっとりますよ、なんですよっていうことで、それを盛り込んで運用を開始して。運用開始についてはそれでいいんじゃないんですかっていう話を、それだけしよるんですよ。何も、否定してるように、やるなやるなって言ってるわけじゃないからですね。そこは誤解のないように聞いとってもらわんと。

○委員長（野﨑伸也君）　ほかに意見ありますか。

○委員（前垣信三君）　議会基本条例をつくることに、非常に難しいことがあるかなと思いましたら、きょう皆さんのお話を聞くと、基本条例つくらないかんとおっしゃるから、非常に（聴取不能）と思うんですね。

で、これ確認ですが、先回の委員会のときに、議会として参考人を呼ぼうと、そういうことには問題ないと。ただ、請願人、陳情人が、もしくは意見を述べたいときにどうすればいいかという扱いだったと思うんですね。で、事務局にも確認をしましたけれども、特に今はそれがないと。だから、委員長さんが、委員長私案で、基本的には発言をしたい請願者・陳情者にはその機会を与えようではないかとおっしゃるのが今回の申し合わせの本来のことかなと思うんですね。

だから、それを参考人ということに当てはめるんではなくて、基本的には参考人は議会が呼ぶ場合は参考人で来ていただくわけですね。こ

れはちゃんとした条例なりがある。ただ、向こうから来たいときにどうするかという話し合いだったと思うんですよ。で、そんときには、向こうから来る場合は費用弁償は払いませんよということで、この前、決着したと思うんですが。いろいろ調べたら、そういう場合でも費用弁償は払わないかんということです。そのあたりは、そこまでちゃんと調べて話をすればよかったんでしょうけど、その後、議会事務局で調査されたらこういうことだと。

ですから、非常に大事なことは、費用弁償のこともそうなんですが、参考人に意見を述べる機会をやったらどうかと。これが一番大事なこの前の話し合いだと思うんですね。ですから、皆さん方が、採決とったことにはいろいろ議論はあると思いますが、基本的には、御本人さんが委員会に来て述べたいという気持ちを尊重しようではないかということは、誰もとめることではないと思うんですよ。

だから、申し合わせでこの前そういった取り決めをなされたこと、悲しいことですが、採決をしたことが一つは残りますが、基本的には、市民の方が意見を述べたいときには門戸を開いてやろうとおっしゃったのが、この申し合わせの趣旨かなと思いますので、そのあたりを含めてですね、考えていただければと思います。

○委員長（野﨑伸也君）　ほかに御意見ございますか。

○委員（村上光則君）　この件についてはですね、もう今までにも大分議論はしてきたと思います。さっき委員長が言われますようにですね、もうせからしかごとして私はしてきたというふうに思います。

結論的に、自民党も言われますが、全会一致、全会一致、これはもう私も望みます、それは。しかし、全会一致でどうしても決まらぬときは、どうしても賛否をとらんとしようなかっとですよ。議会ちゅうのは。国会もそやんじゃなかですか。じゃあって数で押していくしかしようがなかじゃなかですか。これは当然のことです、議会は。そら、数の力は政治の力、数の力で、今言う、言葉で言うじゃないですか。そりゃしよんなかっですよ。

だから、最終的に決むるときは、そういう結論は出さんといかぬとだから、全会一致が一番望ましかですよ。本当は。私もそやん思います。そうばってん決まらんときはやっぱし決をとらんと決まらん。そりゃあですね、もう議会人だったらそこは考えてくださいよ。おかしいですよ。

以上です。

○委員（村川清則君）　この議運に入れない会派があるですよね。一人会派、二人会派。こんだけの議会だったら、多数決も簡単によかと思います。でも、一人会派、二人会派も巻き込んで全体でやっていこうということだから、だから、基本、全会一致となっとったと思うとですよ。だけん、限りなく１００％に近いほど、原則的に全会一致でお願いします。

○委員長（野﨑伸也君）　ほかに。

○委員（成松由紀夫君）　今言われたとおりに、市民の皆さんに門戸を開くっていうのもわかるんですよ、正論として。であるならば、議運の議論の中のそもそも論というのは、今、村川委員がおっしゃったとおりで、そしたら一人会派、二人会派にももっと門戸を開いてあげなきゃいけない部分だって出てくるだろうし。

やはり、総合的に考えていかぬといかぬ部分がある。請願と陳情のそもそもの意味合いっていうのは、やっぱり意見をいろいろ言いたいから、しかし、あたたちは選挙のときに、市民の代弁ばする代弁ばするって言いなっときに、代弁ばどこででくっとかって言うたら、請願ならば、あたどんが言うてやっとなって言うて請願に来られる市民の方。陳情の部分だと、なかなかその方々の願意が言えない部分での、陳情・

請願、そういう段階的なもんがあってですよね、請願の色合い、陳情の色合い。

で、そういうことば考えていったときに、皆さん方のおっしゃるのは、もうそういうことを市民が煩わしくいろいろ考えるんじゃなくて、もう請願でも陳情でも出してきて意見を言いたいという人はどんどん発言させたら門戸を開くじゃないかっていう部分で、確かに切実な問題、各団体それぞれあると思いますが、その中でもやはり、もう言うたらですね、何回も何回も出されてきて、審議未了になっとるようなところでも、毎回毎回聞いていくんですか。極端な話、もう、１０団体、２０団体というようなときがあるときに、それも全部、議会事務局はお伺いたてて、発言されますか、されませんかっていうようなことをやっていって、本当に大丈夫なのかなっていうのが我々の意見なんですよ。

だから、さっき前垣委員が言われる部分も門戸を開いていいでしょう。しかし、今、この議運の、――そりゃわかってますよ、村上さんが言われるようにね、決まらんときは数でも決めるとが民主主義たい。いや、ただ、それは本会議なり、各常任委員会の部分もあるんだけど、議運、それと議会改革、庁舎建設もだったと思うんですけど、原則は一人会派、二人会派も入れないようなところもある中でですね、特に議運は大事なとこだから、基本、原則、ここの全会一致は大事にしていきましょうよっていう話の流れで、こういうことが出てくると、やっぱり、もう一回、しっかり話をしていった中で、議会基本条例に載せるのがなじむというような部分であれば、そっちのを待って。

何で急ぐ必要があるのかなという。いろいろもんできたけん、いろいろ決めたけんじゃなくて、市民にとっての急ぐ必要のメリットって何ですか。もうどっかから、言わせてくれ言わせてくれって何ありよっとですか。

○委員長（野﨑伸也君）　私が発言してよかですか。

○委員（成松由紀夫君）　うん。そこは委員長にお尋ねします。

○委員長（野﨑伸也君）　それはないでしょう。ただ、そういった門戸を開きましょうねって。市民に対して、こういった八代市議会は門戸を開いてるんですっていうお知らせをしたいっていう話なんですよ。今までなかったでしょっていう話なんですよ。

これがないから、今まで八代市議会はこういうことを決めましたと、請願・陳情でも言いたい人がおればですね、来てくださいよと、議会の中で話すことができるんであれば、来てくださいよと、そういった開くというのが一番大事なんじゃないですかという話で提案をしてるわけなんです。

あと、ばらまき陳情については、嶋田事務局次長、ちょっとこないだあったですよね、そこに制限をかけてるっていうのが。議論であったろう、こないだ。（委員成松由紀夫君「委員長、ばらまき陳情っていう言い方はどうだろう」と呼ぶ）

○議会事務局次長（嶋田和博君）　皆さんお持ちだと思うんですが、最終の委員長案の中にですね、目的の中で、１番目の項目ですが、決議・意見書の提出を求めるものは、対象外とするということでですね、いわゆるばらまき陳情というのは、国に対する要望で、意見書の提出を求めるものが、そのほとんどであるということでですね、こちらで縛りをかけたところでございます。

それともう１点。（「手続、手続の一番最初」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　委員会において。

○議会事務局次長（嶋田和博君）　そうですね。意見陳述の対象となるのは、委員会に付託される請願・陳情等を対象とするもので、参考

送付されるものについては対象外とするということで、こちらでも制限をかけたところであります。

以上です。

○委員長（野﨑伸也君）　ありがとうございました。

○委員（山本幸廣君）　２点ほどです。

今、成松委員の意見の中でもですね、申し合わせという言葉をですね、これはしっかり受けとめばいけないんですよ。申し合わせ事項っていうのはたくさんあると思うんですよ、事務局、うちの八代市議会で。その申し合わせ事項というのをですね、これはみんなが理解をして、みんなほとんど全会一致という形の中でですね、捉えてきたともあるし、また、多数決とった経緯もあります、その申し合わせ事項。最終的には本会議で申し合わせ事項というのはするわけですけども。

そういうことを考えればですね、今の申し合わせ事項、前回の委員会で申し合わせ事項が結論を出したと。そのときの、今回の委員会では成松委員が発言、質疑というのは、そういう意見が出とるわけですよね、今、成松委員が発言された意見というのは。そういうのも私は意見は意見としてですね、これは捉えていくのは当たり前なんですよ。

ただですね、多数決とかの一人会派とかなんか、これも申し合わせ事項なんですよ。一人会派なんかは全部申し合わせ事項なんですよ。だからこそ、指数を割ってからですね、３人以上が交渉権を得るとかですね、そしてまた、代表者会議で必ず代表者会議を、――そのときのですね、３人以上の交渉会派というのは、大変これも議論がありました、私たちの時代にも。私が議長してたときも、古嶋委員の議長されたときも。議長経験者っていうのは、必ず議長が代表者会議を開いて、そしてまた、３人にするのか２人にするのかって、会派交渉というのは。そこでもやっぱ申し合わせ事項なんですよ、これも。

そのかわり、申し合わせ事項の中ではですね、一人会派の意見が、――村上委員から出てましたけども、一人会派には必ず事務局からきょうの申し合わせ事項については報告すると、そして、また一人会派についてはその意見を述べることもできるというふうに申し合わせしてるんですよ。

だから、それはですね、私たちはもう皆さん方が理解をしておられるという発言だと思うんですけども、それをしっかりして捉えて、今回の委員長案の申し合わせというのもですね、みんなで議論をした。けれども、それは完璧じゃなかったかもしれない、今、成松委員が発言される中でたい。それについてはやっぱし意見として、これはやっぱり審議の過程として、私、審議していく必要があると。だから、今そういう議論が。それをあんまり興奮状態になってたい、やってしまったら、元の木阿弥になっていくんですよ。事務局が悪かっか、委員長が悪かっか、誰が、委員が悪かっかとかになってくるわけでしょう。

法的には参考人なんか悪くないんです。法的に参考人制度ってあるわけですから。ただ、今、成松委員が言われたような、その流れの中でどこまで縛りをかけるか、どこまでどういうのを申し合わせするのかということで、前回議論を何回もしたじゃないですか。そういう中で、最終的には、そういう判断をしたと。それについて成松委員が言われる中で、それはそれとして、意見として、今、議論をしていいわけですけんでから。ですね。

じゃあ、どれをするかって。じゃあ、委員長が、いやもうすぐしたいと。議会改革特別委員会で基本条例についてはどうしますかって。基本条例については、もう本当は、私たち、記憶じゃありませんけれども、自民党さんはあんま

り前向きじゃなかったんじゃなかったかな。違うとかな。（委員成松由紀夫君「前向きじゃないですよ」と呼ぶ）なかったろ。（委員成松由紀夫君「うん」と呼ぶ）だけんで、きょうは本当に、前垣委員言われるように、きょう、私、一歩前進だと思うんですよ。一歩前進だからこそですね、今、成松委員の――（「前進ですか」と呼ぶ者あり）前進ですよ、それは。成松委員の発言の中で、基本条例にそれ盛り込めばよかっだろうがっていうことですけんでから。前進も前進ですよ。これもう物すごい前進したと思う。だから、それについては、真剣に捉えていいんじゃないですか。

○委員（亀田英雄君）　やり方についてはいろいろあったかもしれんけど、一応決定した事項について、その内容についてふぐあいがあったという話じゃなかですか。（「そうそう」「そうです」と呼ぶ者あり）なら、そればどげんかしようという話ばすればよかだけのことであって、その方向で話ば進めてもらえればというふうに考えます。

○委員長（野﨑伸也君）　今、御意見ありましたけれども、私もですね、この間、決をとりまして、これが八代市議会の申し合わせ事項として運用されるということになりましたので、その後、何かふぐあいがあればですね、皆さん方に御協議いただきたいというようなこともですね、前回の会議の中で話をしてましたもんですから、まあ早々なんですけれども、ふぐあいが出たということで、今回御提案をさせていただいてるということでございますので、それについて御協議いただければというふうに思います。

○委員（古嶋津義君）　私は当初から、ちょっとそぐわんとじゃなかねという発言をしておりました、私の経験からですね。その中で、あっちこっち見てみますと、議会基本条例の中でうたい込めば何とかいいのかなという話がございました。先ほど山本委員からもありましたように、私ども自民党会派でも、議会基本条例のあっちこっちんとをとりまして、皆さんにお配りして、自宅でちょっと勉強させて、この次はみんなで勉強会をするわけでありますけれども。その辺までいって、議員の皆さんには、そういうことで、縛りかけとかぬば、今度のあれはちょっと、やっぱり費用弁償の部分でおかしいんじゃないか、そういう発言をしましたので、先ほど訂正がありましたように、やっぱり少し議運という場は慎重に、もう少しやっぱり、全会一致を基本にしてされたほうが、私はいいんじゃないかなと思います。

○委員長（野﨑伸也君）　ほかに。

○委員（前垣信三君）　済いません、確認です。前回の委員会のときに、例えば意見を述べたいという請願・陳情人がおった場合に、それの許可と言いますか。それは所管の委員会なりで話をして決めるという話を確認したかっですが、それでよろしいんですかね。

○委員長（野﨑伸也君）　３ポツの意見陳述書の手続のところにですね、付託審査前に開かれる委員会において、その要否を決定するというふうになってますんで、そのとおりです。

○議会事務局長（東坂　宰君）　今、いろいろと御意見出していただいておりますけど、そういった中で、基本的なそもそも論といいますか、その辺のところを１つ増田のほうから説明を１件させていただいてよろしいでしょうか。

○委員長（野﨑伸也君）　何についてですか。（発言する者あり）

○議会事務局長（東坂　宰君）　請願・陳情を希望される方のですね、発言について、それが基本的にどういうものなのかというものを含めましてですね、基本的な部分、そもそも論といいますか、その辺のところを少し、今、説明が必要なのかなと少し思ったもんですから。

○委員長（野﨑伸也君）　今のところはないと

思います。（発言する者あり）済みません、先ほども言いましたけれども。（委員成松由紀夫君「発言させたらいいじゃないですか」と呼ぶ）いや、それ委員長の裁量ですから。（委員成松由紀夫君「裁量、裁量って何でも強引に進めればもう」と呼ぶ）いや、強引じゃなくてですよ、だって、今の議論の中で必要か必要じゃないかを私が決めるもんですから。（委員成松由紀夫君「大したもんだ」と呼ぶ）

○委員（亀田英雄君）　委員長、さっきから何遍も言うとるごとですたい、議事進行してください。きょうの会議の目的に、そっから全然、外れる話ばっかじゃなかですか。

○委員（古嶋津義君）　今、大事な議論だと思いますが、委員長、副委員長だけでなくて、私は委員会で採決をしなければいけないのかなという判断ですが、その辺のところを少しお聞きしますが。参考人招致についてですね。意見陳述について。

○委員長（野﨑伸也君）　意見陳述について――。古嶋委員、もう一回よろしいですか。

○委員（古嶋津義君）　意見陳述について、委員長、副委員長が許可をするんじゃなくて、委員会に諮ってそこで採決を諮るとじゃなかったのかなと私は思うんですけど、その辺のところはどうなってますか。事務局が詳しいですから。

○議会事務局長（東坂　宰君）　今の件につきましては、そういう御希望があった場合には、該当する委員会で協議をされて、委員会で決定される。これは意見陳述をしていただきましょうと。これはそこまでの必要がないんじゃないかというのは委員会で決定されるというふうに思います。（委員山本幸廣君「この前、そやん申し合わせしたろが」と呼ぶ）

○委員長（野﨑伸也君）　よろしいですか。

それでは、先ほどから何回も言ってますけれども、ふぐあいがありました部分について、今回、皆さん方に御提案をしております。６ポツの意見陳述者への実費弁償について、希望した場合は支給しないとしておりましたけれども、参考人招致制度にのっとっていけば、意見陳述者についてはですね、支給しなければならないということに変更していくということの文言等についてですね、皆さん方から御意見をいただきたいというふうに思います。

ございませんか。

○委員（成松由紀夫君）　その実費弁償はもう、発言される方にはもう全部、もれなく配らんといかんということでしょう。それを配らんでよいというのが配らんといかんってなった場合に、そこの発言したいという人でしゃべる人には全部配るわけですか。

○委員長（野﨑伸也君）　よろしいですか、よろしいですか。（「事務局、事務局」と呼ぶ者あり）

○議会事務局長（東坂　宰君）　そこは先ほど申しましたように、委員会で決定されますので、委員会で決定されて発言をしてくださいということになれば、全部支給することになります。

○委員（成松由紀夫君）　全部支給。

○議会事務局長（東坂　宰君）　はい。

○委員（成松由紀夫君）　発言した者は。

○議会事務局長（東坂　宰君）　発言した者。

○委員長（野﨑伸也君）　委員会がストッパーになるというところでございます。

ほかにございますか。

○委員（亀田英雄君）　払わんばいかんとなら、払わんば仕方なかっじゃなかですか。で、そればどっかに定めんばんという話だと思います。

○委員長（野﨑伸也君）　ほかにございますか。よろしいですか。ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　先ほど来からです

ね、いろいろとストッパーの部分がですね、多分気になってられる御意見ちゅうか質問等がありましたけれども、先ほどもありましたとおり、全ての方がですね、常任委員会等で意見陳述できるというようなことではございません。何回も言いますけれども、委員会で皆さんがそれを決めるということになりますんで。そこの部分はですね、皆さん御理解をいただければというふうに思います。

それでは、６ポツの意見陳述者への実費弁償について、ほかに御意見・質疑等なければ、現行条例に沿って費用弁償を支払うことに御異議ありませんかというようなことでいきますけれども、御異議、質疑等ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員（成松由紀夫君）　これは採決なり何なりやるんですか、この件について。そもそも反対なもんだから、この辺の部分的なものに賛成しても、賛成したろうがって、後から言われる気のするもんだけん。

○委員（亀田英雄君）　そもそもに反対、――今から戻すものじゃないって言わんだったですか。（「うん、言うたよ」と呼ぶ者あり）だけん、それはおかしかっじゃなかですか、今の話は。することについては賛成だけん、その話をしましょうっていう話だったから私は、そげんした話にのってきたとですよ。そもそも反対論っていう話なら、全体が覆す話じゃなかですか。そんな話はもうやめましょうよ。そんな話なら前提が違う話ですから。

○委員（成松由紀夫君）　いやだから、委員会としてはそう決まったという話で、いまだにやっぱり、この制度については私はやっぱり反対だから、なかなか賛成の意思は示せないと。そういう場合は棄権でもいいんですか。反対してもいいんですか。賛成せろと、それは強引に言われるものじゃないでしょう。

○委員長（野﨑伸也君）　今の御意見に対して。

○委員（山本幸廣君）　成松委員の発言の中で、テープを起こしていただければすぐわかると思うんですけども、それはもう亀田委員が言われたように、成松委員が発言されております。されとる。（委員成松由紀夫君「何をですか」と呼ぶ）はっきり言ってから、基本的にはこれは賛成ですっていうことでですよ。

○委員（成松由紀夫君）　いやいや、決めたものは尊重しますってさっき言った部分でしょう。

○委員（山本幸廣君）　うんうん、そうそうそう。それをしっかりしとかんと。

○委員（成松由紀夫君）　しとるけん賛成ということじゃないでしょう。

○委員（山本幸廣君）　賛成って言うた、さっき。

○委員（成松由紀夫君）　決まったものは尊重するとしか言うとらんですよ。

○委員（山本幸廣君）　んねんね、違う違う。言うた。

○委員（成松由紀夫君）　反対しないものであるがと言うたんです。テープ起こしたらわかります。

○委員長（野﨑伸也君）　よろしいですか。言った言わないは、今すぐはあれなんですけれども。

○委員（成松由紀夫君）　揚げ足とられたっちゃ。

○委員（山本幸廣君）　何が揚げ足か。言うたっだけんでから。

○委員（成松由紀夫君）　反対するものではないって言うただけで、賛成ですとは言うとらぬ。

○委員長（野﨑伸也君）　委員長として今――よろしいですか。整理しますよ、整理しますよ。（発言する者あり）静粛に。よろしいですか。

賛成しないというような御意見があれば、最終的には採決をとらなきゃいけないというふうにはなってますんで、とらないかぬというふうに思いますが。先ほどから言ってますとおり、決まった申し合わせ事項について、文言等の修正を行いたいという御提案をさせていただいていますので、それについてはですね、御理解をいただきたいというふうに思います。

よろしいですか。ほかに御意見ございませんか。

○委員（亀田英雄君）　１ついいですか。この趣旨は、広く門戸を開きたいと、委員長が何回も言うとですが、そこにあっとですけん。そして、あと、ストッパーもいろいろあるとですけんが、まずは開かれた議会を目指すやり方として取り組んでみることが大事だと。

で、基本条例についてもいろいろ申されるんですが、形があってそこに入れるのか、申し合わせを全部集めたつが条例になっとか、その辺はまだ、みんなで決めたもんじゃなかじゃなかですか。形がなからば決められんっていう話じゃなくて、いろんな申し合わせの中で議会をしよるだけのことであって。それを１つにまとめれば条例になるわけだけんが。基本条例ってそんなものでしょう。条例がなからば何もかんも運用できぬっていう話じゃなかっですけんが。いろんな申し合わせの中でそれをつくっていけばよかっですけん。というふうに私は思います。

含意は、開かれた議会を目指して、いろんな市民の意見を広く聞きましょうという話ですけん、費用弁償を払う払わぬっていう話じゃなくてですたい。というふうに考えますので、御理解いただきたいなというふうに思います。

○委員（成松由紀夫君）　意見です。先ほどからいろいろ話をしていく中で、いろんなそれぞれの受け取り方が違うようですが、前垣委員が言われた議会基本条例については、自民党的にも進んだんじゃないんですかというような話もありますが、議会基本条例についてもですね、まだまだ、うちの会派も、私自身も、熟議が必要だということで、何らまだ進展は、今から勉強するという段階でありますので、それは理解していただきたいというのと。

それと、この件についても、市民に門戸を開くという部分の話は、一部理解はできますけれども、それについてはまだまだ、そもそもこの制度についての意見もありますし、それぞれのですね、やっぱりイデオロギーの問題であったり、いろんなものの絡んでくると危惧する部分もありますので、私は私の判断をさせていただきたいというふうに思います。

以上です。

○委員長（野﨑伸也君）　ほかにございますか。

○委員（中山諭扶哉君）　改めてですね、今回の議題の変更点の内容をちょっとまとめてもらってよかですかね。（「どこにあっと」と呼ぶ者あり）一番最後に――。

○委員長（野﨑伸也君）　皆さんお手元にあるかと思います。申し合わせ事項の６ポツ、意見陳述者への実費弁償について、以前、御提案、御決定いただいたものについては、請願者などがみずから意見陳述を希望した場合は支給しないというふうにしております。それを、参考人制度を活用しているというふうなことがございますので、意見陳述者については実費費用弁償を支給するというような項目に変更するということでございます。

中山委員、よろしいですか。

○委員（中山諭扶哉君）　金額についての６番の部分についての修正ということで。

○委員長（野﨑伸也君）　金額はございません。こないだからあった２２００円ですね。

○委員（成松由紀夫君）　最後に１個だけ。最後です。

例えばこれを修正して、その部分で運用していくとしますよね。まあ委員長が運用するっていうことで前向きだから。そのときに何らか、各常任委員会なり何なり、現場で支障が起きたときは、また即座にでも申し合わせ事項は変えれるということでよかっですね。それは確認しとってよかですね。

○委員長（野﨑伸也君）　もちろんです。これまでもですね、何個かですね、申し合わせ事項をですね、御提案させていただいた部分があったかと思いますけれども、それについてふぐあいがあった場合は、直ちにその議論をですね、しましょうということも、議論の中で話をさせていただいておりますので、それは御心配なさらないようにしていただきたいというふうに思います。

よろしいですか。（発言する者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　それでは、るる申しましたけれども、費用弁償を支払うことに異議はございませんか。

（「異議あり」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　ありということでございますので、それについては採決をとらさせていただきます。

現行条例に従って、費用弁償を支払うことに御異議ない方、挙手願います。（「賛成」と呼ぶ者あり）賛成の方か。賛成の方、挙手願います。現行条例にのっとって、費用弁償を支払うことに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者　挙手）

○委員長（野﨑伸也君）　賛成多数ということでございます。そのように決しました。

○委員（亀田英雄君）　委員長、確認ですが、これはいつからすっとかな。

○委員長（野﨑伸也君）　これは――。

次の議会に間に合うかな、申し合わせ。一応、委員長案なんですけれども、腹案なんですが、次の議会がもう始まりますが、そのところからもう進めていきたいというふうに思いますし、全員協議会の中でですね、議会運営委員会の中の、この議長から諮問されている議会改革の経過については報告をしたいというふうに思ってましたので、次回の議会からはもう運用をしていきたいというふうには思っております。（「６月」と呼ぶ者あり）３月です。３月です。

よろしいですか。（「了解しました」と呼ぶ者あり）

それでは、次、２番目、政務活動費の使途基準などについてですけれども、会派控室の設置について協議をしていきたいというふうに思います。

前回ですね、１から４は御提案をしてましたけれども、経費のかからない第２案を中心にですね、各会派で御協議願いたいというようなことがございました。２点目については、いつからやるかというようなこと。３点目、現行の事務所費をどうするかというようなことで、会派のほうに持ち帰っていただくということでございました。

その件について、まずは自民党のほうからよろしいですかね。

○委員（古嶋津義君）　うちは結論として、第２案ということです。

○委員長（野﨑伸也君）　第２案ですね。

○委員（古嶋津義君）　ただ、それにも書いてありますように、うちのほうがちょっと狭いのかなという思いがありまして、その辺のところは配慮をお願いをしますと。

○委員長（野﨑伸也君）　第２案で、自民党が狭いと。（発言する者あり）

○委員（古嶋津義君）　ああ、済いません、第４案です。鏡支所。

○委員長（野﨑伸也君）　第４案。

○委員（古嶋津義君）　鏡支所の中で、その中で少し狭いから。第２案は貸し事務所。

○委員長（野﨑伸也君）　古嶋委員、済みません。（「２案でしょ」と呼ぶ者あり）鏡支所は第２案。第４案はですね、事務所費の補塡の関係です。

○委員（古嶋津義君）　なら、うちは第２案ですね。ただ、狭いからということがありました。そして、今の事務所費のそれまで話せば、この前、亀田委員が何か改選まで契約しとっとがっていう話のあったろう。それで改選後にしたらどうだろうかという話がたしか。

○委員長（野﨑伸也君）　改選後ですね。

古嶋委員のほうから、――自民党案でよろしいですか。皆さん聞きましょうか。（発言する者あり）よろしいですか。自民党案でよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

今、第２案のほうで行きたいとして、ちょっと自民党のほうが狭いんで、そこを考慮してくれぬかというお話がありました。で、時期については改選後からというような、――改選後からやる。済いません、確認ですけど、改選後にここでやる事務所っちゅうか、会派室をつくるってことでよかですか。

○委員（古嶋津義君）　というのが、この前、ちょっと亀田委員から、いつまであっとかいって尋ねましたら、契約がその辺だったもんで。

○委員長（野﨑伸也君）　それまでは、じゃあ、今のスタイルでやろうよっていう、つくらんでっていう話ですね。わかりました。

山本委員、よろしいですか。（発言する者あり）わかりました。山本委員、済みません。

○委員（増田一喜君）　前回聞いてたんやけど、うちのところがこうなって、２案でいくとすると、少し狭いんじゃないかって。壁いっちょ取り外すってそやんとの経費はどのくらいかかっとかいっていうような、ちょっとお尋ねばしとったみたいだったけれども、そやんとはどうですか。

うちとしては、少し狭いかなと思って、もうちょっとスペースが欲しいという希望があったんですけど、壁一つ取るのに。（発言する者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　増田委員言われたのがありましたね、たしか。私は増田委員に直接それをお伝えくださいというようなことでお願いをしました。（「聞いてない」と呼ぶ者あり）

○議会事務局次長（嶋田和博君）　前回の委員会の中で増田委員のほうから、広さはですね、壁を少し調整できないか、改修費用等幾らかかるのかというお話をいただいておりました。今回ですね、６部屋ですね、あく予定になっておりますけども、現在、議会事務局の総務係がおります部屋は、もともと正副議長室ということになっておりましたので、現在、北側に議長室を配置しておりますけども、このような形になった場合は、正副議長室はもとの場所に戻すというのが事務局としては想定しておりますので、なかなか２間続きという部屋がとりづろうございます。洋室と和室だったり、給湯室と図書室だったりといったことでですね、なかなか現実的には難しいのかなというふうに考えておりますが、壁の撤去費用については、やり方次第ですが、前回の事務局と旧事務室の壁を取り払って、いろいろと化粧したりする経費で数十万から１００万程度ということで、やり方次第だとは思っております。

○委員長（野﨑伸也君）　よろしいですか。

○委員（増田一喜君）　ということは、２間続きでできないということは、議会事務局総務係ちゅうところと、今、議長室って北側にあるですよね。あれを入れかえるちゅうことですか、もとに返すということですか。入れかえて、結局どこにっていうのはないんでしょうけれども、自民党が、今、議長が使っている議長室、北側の３１．２平米ですか、そっちのほうの部屋を使うという意味だったっかな。何かそんな

ふうにとれたんですが。

○議会事務局次長（嶋田和博君）　正副議長室は、事務局としてはですね、本来のところに、それ相応のですね、つくりというか、なっておりますもんですから、本来であれば、戻すべきかなというような考えを持っているというだけでありまして、最終的には、各委員さん方でお決めいただくことでございます。

○委員（増田一喜君）　そうすると、３４平米から３１．５、また狭くなるというような雰囲気になるばってん、まあ、考えさせてもらわんば。

○委員（成松由紀夫君）　それは事務局の考えであって、後は代表者会で決めるっちゅう話。（「そうです、そうですね、後はやってみらんばわからん話だけん」と呼ぶ者あり）

今団長が言われたとおりの、ほぼ流れなんですけども、できればこちらこそ少し急いでほしいなと。時期は。

○委員長（野﨑伸也君）　改選後じゃなくて。

○委員（成松由紀夫君）　うん。やっぱり不自由ばしとっとですよ。で、先々見込んでいけば、改選後、じゃあ改選してからすぐ臨時議会だ何だかんだっていうのを今までの大体スケジュールを考えると、この後入られる議員さんにしても、常に招集招集でいろいろあるでしょう。ってなると、そのときにはもうある程度スタンスが決まっとけばいいのかなというのがあるので、できれば、でき得る限り急いでほしいなと。あとは大筋変わりません。団長が言われたとおりです。

○委員長（野﨑伸也君）　済みません、確認なんですけど、古嶋委員とちょっと、会派違うけんですね、というのはわかるんですけれども。

○委員（成松由紀夫君）　でき得る限り。

○委員長（野﨑伸也君）　古嶋委員、どやんですか。

○委員（古嶋津義君）　僕は改選後でよかったろうと思うとっとですよ。（発言する者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　わかりました、はい。

○委員（古嶋津義君）　それともう１点は、嶋田次長が言うたごと、ここは（聴取不能）おりますもんですから、強度を損なわないようにですね、お願いします。（「強度、強度」「ああ、耐震がね」と呼ぶ者あり）

○委員（山本幸廣君）　あの山本案のとおりです。未来は。

○委員長（野﨑伸也君）　山本案ですね。

○委員（山本幸廣君）　２案です。（発言する者あり）（笑声）

○委員長（野﨑伸也君）　山本委員、時期はどうしましょうか。

○委員（山本幸廣君）　時期ですか。もう古嶋前議長と同じ考えです。

○委員長（野﨑伸也君）　改選後。

○委員（村上光則君）　第２案の、これが一番いいんじゃないかと思います。お金もかからないから。そして、もうせっかくだけん、もう改選後は、数もまだ、減ってくるというふうに感じておりますから、減ってくれば、また部屋のつくりもまたいろいろ変わってくるんじゃないかなというふうに思いますから、改選後でお願いします。

○委員長（野﨑伸也君）　わかりました。第２案、改選後。

○委員（前垣信三君）　２案で、改選後でいいと思います。

○委員（亀田英雄君）　２案で改選後でお願いしたいと。改修はもう６月議会ぐらいから取り組んでいただければ、間に合うっじゃなかですか。改選後に支障なかような取り組みばしてもらえばですね。というふうに考えます。（発言する者あり）自民党代表に御配慮いただいて、改選後ちゅうことで。

○委員長（野﨑伸也君）　改選後ですね。

○委員（亀田英雄君）　改選後にお願いしたい。

○委員（村川清則君）　同じです。

○委員長（野﨑伸也君）　中山委員はよろしいですか。

○委員（中山諭扶哉君）　異議なし。

○委員長（野﨑伸也君）　今お示しいただいたものでいけば、第２案というのは間違いない。鏡支所庁舎３階のほうですね、やっていくということでございます。

時期については、改選後というのが多数だったかと思いますけども、成松委員、どやんでしょう。改選前がよろしいですか。今、改選後というのが大分多かったですけれども。

○委員（成松由紀夫君）　ま、できればで。

○委員長（野﨑伸也君）　できればということ。

○委員（成松由紀夫君）　だから、改選後だ改選前だっていうことではなくて、でき得る限り早いほうが不便が――。

○委員長（野﨑伸也君）　設置したほうがいいよっていう。

○委員（成松由紀夫君）　不便な思いが解消されるなちゅうこと。

○委員長（野﨑伸也君）　改選後スムーズにということですよね。はい、それはわかりました。

それでは、まずは鏡支所庁舎３階のほうに、会派控室を設けていくっていう方向性でよろしいですかね。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　あと時期については、改選後でありますけれども、できるだけ次の改選にもたつかないようにですね、やっていただきたいというようなことでございましたが、よろしいですか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　それでは、もう１点ありました。現行の事務所費についてはどうするかというようなことでございますが、これについて、皆さん方から御意見等いただければというふうに思います。

今、政務活動費のほうでですね、議員の皆さんが支払いをしていただいてるという部分になりますけれども、これを改選後までどうするかという話ですけれども。

何か御意見ございませんか。

○委員（亀田英雄君）　実際ですね、先日内容ば聞いてみたら、１人当たり毎月２万ぐらいかかるような話をしよりました、経費として。で、３万のうち１万しかないと。今、出しよるけんですね。そうなるとあれかなと。できれば、何かもう少し研修とかいろいろ視察とか使わるる金が出ないかなというふうな思いがあっとですよ。で、何かお知恵がなかかなというふうに思っております。

○委員長（野﨑伸也君）　ほかに。今、政務活動費のほうで事務所費を払っているというような状況があるということでございますので、その点について皆さん方から御意見をいただきたいということでございますが。なかなか研修費用とかですね、少なくなってきてるということでございますが、この点については何かございませんか。

○委員（村上光則君）　政務活動費ででくっとなら、それが一番よかっでしょうけど、それぞれの会派が必要となれば、それは自分たちで実費で出してでも借りてせんとしょんなかじゃないですかね。私はそう思います。

○委員（亀田英雄君）　多分ここに書いとっとはですね、今、検討しよっとは、政務活動費で補うものか、要は会派控室というとは行政負担で賄うという考え方があるもんですからという話だったと思うとですよ。で、その辺について、何か手当があるのかという部分について、何か妙案はないかなという話なんですけどね。

○委員長（野﨑伸也君）　どうですかね、皆さん。

○委員（亀田英雄君）　それはもう皆さんの意向に従うまでですが、何かないかなと。

○委員（古嶋津義君）　うちのほうは、もう政務活動費で全部、改選までは対応していこうということにしとります。少し窮屈ではありますけれど、そういう思いをこの前、うちの会派には話をさせていただきました。

○委員（成松由紀夫君）　今、団長が言われたとおりの状況であるんですが、結局、役所内にあればよくて、役所から出とる分の会派事務所というか、になると、なかなか対応がどうなのという状況だと思うんですよね。

ただ、ほら、今、ほかの、執行部の課でも、貸しビルに入っとらしたり、やっぱりいろいろ臨時的な措置もされとるような部分があるので、そこはまた、事務局と正副委員長あたりでまた少し、何か、今、亀田委員が言われる妙案があるのかないのかを少し精査されたらどうですかね。

できるのか、――いや、それは議会はできないんだよ、役所から出たら、それは政務活動費で対応してくれっていうことであれば、もううちは政務活動費でいく腹はあるので。ただ、やっぱりそれぞれ、何かいろいろと不自由しとる思いもあるからですね。そこを何か妙案がというのは、多分そういうことじゃないかなと。我々もそういう妙案が何か提示されれば、また考えていきたいなという気持ちはあります。

○委員長（野﨑伸也君）　そもそもなんですけれども、地震によってここに議会が移ってきたということがありまして、議会の中に大体は執行部ちゅうか、会派室をですね、提供しなきゃならないというようなことがあったんですけれども、それができてないというような状況の中で、じゃあ、今の、それに代替する案として事務所を借りてください、その事務所費については、政務活動費を使われても大丈夫ですよというようなことで、今行っていただいてるんですけども、それが今後できるのが、先ほど決めていただいたように改選後ぐらい、改選前ぐらいですかね。というようなことでお決めいただいたんで、その間を、じゃあ政務活動費でそのまま支出していくのが適当かどうかと、自分たちの本来の政務活動費の使途の使い道からすればどうなんだというところを皆さん方からもう少し議論、御意見等をですね、いただければなというふうには思うんですけれども。

どうですか。

○委員（山本幸廣君）　要は、前回の委員会で事務局サイドの発言の中ではですね、説明の中では、会派が事務所を持ってるところは４会派だったかな。４会派だったよな。それについて、光熱費からずっと計算をされた中での報告まではですね、お聞きしながら、その後、判断をしてほしいということでしてもらって。そういう中で、今の発言が出とると思うんですけども。

これをもし議会費の中からですね、助成をするということになればですね、もう予算要求の、もう定例会ですけど、ほとんど終わってしまって、もう製本はでけとると思うんですよ。その中でうちの予備費でするのか、何でするのかというのは、今の発言の中では検討していく、そこまでしかこれはないと思うんですよね。

ただ、どれぐらいいるのかということで、４会派以上の方々が、以上の会派がもし事務所を借ったときに、それをどうすんのかということまでですね、考えて議論をしなければいけないと思う。と私は思うんですよ。

そこらあたりについて、本当に助成をするならば、するようにですね、概算的な問題もあるし、そしてまた、各会派の意向も聞きながらですね、こういうことで助成することになりまし

たと。例えばですよ、となれば、会派が、いやうちもここの鏡の近くにちょっと借りたいですと、借りることになりましたというのは、それもまた対象になるわけでしょう。ならないけないわけですからですね。それがどれだけの会派になるかということで、それは事務局サイドで、きょう、この委員会でどういう方向にいくかわかりませんけども、その議論の中で、私はしっかりした議論をしてみたらどうかなというふうに思います。そこまで考えた中で議論をする。助成をするならば、助成をする。政務活動でいくなら政務活動で、今までです。どっちかで、今の意見、発言の中でですね、委員長が取りまとめていただければなと思いますが、いかがでしょうか。

○委員（増田一喜君）　政務調査費、今は政務活動費ですね。政務活動費はもともと事務所には使っていいというふうになってたはずですよね。ただ、今言ってるのは控室をどうするかだから、控室を事務所の中に兼用としておいて、事務所費じゃなくって、控室用の費用として、活動費を、事務所を借りてるからそこにのせてくださいというのかでしょう。

我々としては、できればそれは別問題になってくると、事務所は政務活動費で借りても、控室としてっていうたら、控室のほうが欲しいなちゅうことだから、それを持ってくれば事務所費は要らなくなるよねという部分があっとですよね。

そこらあたりをきちんと分けていかないと、何か事務所、事務所って言いよると、ごっちゃになってくっとですよね。控室だったら控室ちゅう呼び名で、控室をどう補塡するのか、それとも、もう事務所をもともと借っとったとこに控室って持っていっていいですよという話なのか、そこがちょっと、今ごっちゃになってきとっとですよね。

○委員（山本幸廣君）　今の増田委員の発言の中で、私の発言はごっちゃじゃなか発言したと思うんですけどでもですね。というのは、控室は何も政務活動費要らないんですよね。（「要らないでしょう」と呼ぶ者あり）要りませんですよ。何も要らないわけですから。

事務所をつくったときの政務活動費で、費用で事務所経費を充てておるから、それに政務調査の活動するのにですね、政務活動費からそれを負担するということをもう少し軽減して、そして、はっきり言って、今、地震・災害等で事務所を借りとる会派の事務所については議会のほうから手当をしてほしい、助成をしてほしいと、そういう一つの考え方で皆さんが今発言をしておると思うんですよ。私もそういう発言を今しとるわけですから。増田委員とはちょっと異なっていますけどですね、考え方はですね。

委員長、それ、諮ってください。

○委員長（野﨑伸也君）　はい。整理しますけど、控室っていうのが提供できないもんですから、外にどやんかしてくださいよっていうことで、今、事務所を借りてらっしゃるとこがあるということですんで、そういうふうに理解していただけると。で、その事務所費について、じゃあどうするのかっていう今話なんですよね。今出てるのが、そこまでですね、議会費でですね、出せるのかどうかっていう話、出す方向性でいくのか、改選後ですかね、改選前ぐらいまでに出していくのかっていう話か、政務活動費で今までどおり、現行でやってくださいよっていう話をするのかっていうことで、今、皆さん方にお諮りをしてるとこなんですけれども。

○委員（村上光則君）　それは政務活動費で補っていったほうがよかっじゃないですか。ちょっと窮屈な面が出てくっと思いますけれども。

○委員（村川清則君）　地震のせいで控室が持てないから、ちょっと役場から場所変えてということですけども、法的にどうなのかっていうことと、監査から指摘受けないのかっていうこ

とをちょっと聞きたいんですけど。

○委員長（野﨑伸也君）　村川委員、事務所費を議会から出した場合、監査かなんかにひっかからんかっていうところですね。

○委員（村川清則君）　そうそうそう。そうです。

○委員長（野﨑伸也君）　局長、どやんですか。

○議会事務局長（東坂　宰君）　即答しかねます。確認をさせていただきたいと思います。

○委員（成松由紀夫君）　多分そうだと思うし、要は控室と――、事務所ちゅうのはそもそも個人で持っとらす場合もあれば、今たまたま控室がないけん、外に出てどうするのっていう話なんで、そこは少し執行部と正副委員長で整理してまた、こういう状況でこうですよっていうとは提案してもらってもいいと思うんですよね。大体皆さんの意見はそれぞれわかんなったろうし。聞き取りもしなったでしょう。

そうせんと、これまた、何だかんだ、選挙も始まれば、金にまつわる話なんかみんなね、ぴりぴりしてくるから、やっぱりその辺はしっかり調べてもらって、今即答しかねますみたいな話もあるからですよ。そこ整理しといてください。それでいいと思いますけど。何か決とるんだっけ。

○委員（増田一喜君）　それとですね、事務所じゃなくて今度は、控室と言うたら、今度は借りるとなれば、スペースの問題も出てくると思うたいね。まあ、どうせ補塡してくれるんだったらば、もうちょっと広目のとか、そぎゃんことも出てくるかもしれんから、そこあたりの、やっぱり、それこそ申し合わせでどれぐらいの人数になったら、どれぐらいのって、それぐらい借ってくださいみたいな、ある程度のもとになるようなところが、もしそういう話になれば、それも考えておかないと。結局、余分なスペースまで余計なお金払わないけぬという形になるかもしれん。なかなかこれも難しいかなとは思うけども。

○委員（古嶋津義君）　まだ、地震から復興復旧の途中でありますので、やっぱり市民に予算要求はいかがなものかと思いますので、ここはもうきつかですけど、改選までは政務費で対応したほうがいいのかなと私は思っております。私どもも、別に自分の懐から政党助成金、年に１２万は払っておりますので、きついですけど、視察等も控えて、それに対応していかんばいかぬとじゃなかかなと、私はそう思っております。

○委員（亀田英雄君）　皆さんの意見に従わばんとですが、発言した趣旨はですね、控室というのは、やっぱり、一番初めに話したと思いますよ。行政のほうから用意するものだという確認がとれたものですから、それならば、何らかのあれはなかかなと。満額払っていただかぬでも、――私が最初に曖昧に申し上げたもんですから、そのようなことを重ねて申し上ぐっとですが、全額いただかんでもですね、行政が出すべきものならば、それなりの補助率を下げてでもですよ、補助金という形でもでけぬとかなという思いがあったもんですから、発言させていただいた次第です。

皆さんの意向に従います。

○委員長（野﨑伸也君）　今、亀田委員言われたとおりだと思います。会派室っていうくくりについてはですね、事務局っていうか、執行部のほうで提供するっていうのは認識がですね、確認とれてたっていうのがありまして、そこからの議論だったというふうに思いますんで。

今、成松委員からは、もう少し時間ば置いてっていう話があったんですが、ただ、政務活動費の関係が絡んでくるもんですから、ちょっと早目にはですね、そこは進めたいなというのがあるんですよ、意図的にですね。

で、今、古嶋委員からは、申しわけないとい

うか、考え方的にですね、今現行どおり政務活動費でやっていくべきだというような御意見がありました。村上委員からもそういった話もあったかと思います。

ほかに皆さん方からアイデア等あればですね、お聞きしたいんですけれども。ございませんか。

なかなか、今の時期からの予算要求というのも厳しいもんがあるのかなというような思いもするんですが。まあ、できないものではないとは思いますけれども。

○委員（山本幸廣君）　いろんな角度からこの問題についてはですね、やっぱり助成をするという立場に立ったときのことを考えればいいんですよね。

今、増田委員も言われたように、じゃあ平米数でいくのか、１会派に、１議員に対して、どれだけ助成するのかという、角度をずっと変えればたくさんの問題が出てくると思うんですけれども、最終的に、亀田委員も皆さんに従うという御意見出ましたので、先ほど来の報酬等審議会じゃありませんけども、あの文言等をずっと一句一句ですね、理解をする中で、そういう状況であればですね、やはり、村上委員の発言もありましたし、古嶋委員の発言もありましたが、今回については、何カ月かという状況でありますので、事務局サイドにもあんまり心配かけないためにも、そしてまた、理解を亀田議員もしていただければですね、委員長よろしかれば、政務活動費で事務所については計らうという状況でお願いしていただければなと思いますが、いかがでしょうか。

○委員長（野﨑伸也君）　ほかにございますか、御意見。ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　出尽くしたようでございますので、それではですね、現行事務所費の関係についてですが、改選までの間、政務活動費のほうで支出をしていただくというようなことで御異議ございませんか。よろしいですか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　御異議なしということで、そのように決しました。

それではですね、第２案の庁舎のですね、配置の関係については、事務局のほうと打ち合わせをさせていただきながら、改選前あたりぐらいですかね、改選後というような話がありましたけれども、そこら辺のところで、部屋割りのほうも代表者会議のほうとか、そちらのほうで諮っていただくというような方向で進めていきたいというふうに思います。

それではですね、お持ち帰りいただいてる部分について、費用弁償、会議出席費用弁償の見直し、連合市民クラブから提案させていただいております部分、廃止案と変更案２つ提案されてる部分がございました。

あと、管外行政視察の見直し、視察成果の反映、こちらについては改革クラブで提案いただいております。

あと、議会のＩＣＴ化ということで、連合市民クラブから出させていただいてる部分がございます。

これ３点とも持ち帰って協議をしていただくということになってますんで、きょうは時間がございませんので、また次回の議会改革の話の中でですね、その方向性について各会派の話を聞かせていただきたいというふうに思います。

それでは、本日の議会改革に関する協議はこの程度にとどめたいというふうに思いますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　御異議なしと認め、そのように決しました。

申しわけございません、次回の開催日について、御協議したいと思いますが、取り決めでは

ですね、定例会月を除く毎月第１及び第３木曜日となっております。次回については４月６日となっておりますが、いかがいたしましょうか。

４月６日。（「４月６日」「木曜」「行きますよ」「万難を排して」と呼ぶ者あり）

はい、それでは、次回の議会運営委員会の開催日は４月６日木曜日とすることに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　御異議なしと認め、そのように決しました。

お持ち帰りとなっていました項目については、次回の会議までに意見集約のほうをお願いいたします。

◎その他

○委員長（野﨑伸也君）　次に、大項目３その他について何かございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野﨑伸也君）　なければ、以上で議会運営委員会を閉会いたします。

（午前１１時５６分　閉会）

八代市議会委員会条例第３０条第１項の規定により署名する。

平成２９年２月２０日

議会運営委員会

委　員　長